

「ながらスマホ」が招いた自転車衝突事故 ～インターネットトラブル事例集より～

“歩きながら”、“自転車に乗りながら”スマートフォンを操作する、いわゆる「ながらスマホ」は、注意力が散漫となり、転倒や階段からの転落などによるケガ、他の歩行者や自転車との接触事故、ひったくりなどの犯罪被害に遭うおそれなどもあり、大変危険な行為です。

スマホを見ながら走行していたら



スマホを見ながら、片手で自転車を運転していたAくん。横断歩道を歩いていた高齢者に気づかず、ものすごい勢いで衝突してしまいました。

歩行者に衝突し大ケガをさせてしまった



高齢者は頭を強く打ち、一時意識不明の重体に。意識は戻ったものの、Aくんは重過失傷害の疑いで書類送検されました。

考えてみよう！

A. 「危ない」と思った経験は？

「ながらスマホ」は前方不注意や注意散漫になりがちです。

- ・人やモノにぶつかった
- ・階段や段差を踏み外した
- ・赤信号に気づかなかった 他みんなで共有しましょう。

B. 自分が被害にあうケース

「歩きスマホ」中の人には、ひったくりや窃盗のターゲット。すれ違いざまにスマホをひったくられたケースやわざとぶつかってケガをさせたり、因縁をつけられたりするケースもあるようです。

C. 他人に被害を与えてしまうケース

ゲームをしながら車を運転して人身事故を起こした大人も。道路、階段、駅のホームなどでは、「ながらスマホ」が凶器になる可能性もあります。具体的に想像して認識を改めましょう。

解説 「ながらスマホ」による事故やトラブルの代償は計り知れない

“歩きながら”、“自転車に乗りながら”・・・日本中どこへ行っても、「ながらスマホ」を見かけない日はありません。

日本視覚障害者団体連合の調査によれば、「歩きスマホ」で何らかの被害を受けたことがあると答えた視覚障がい者は2人に1人。点字ブロック上の衝突事故もあるようですが、健常者が前を見て歩いていれば起きないはず。スマホを使うテクニックよりも、マナーやモラルの向上が急がれます。

過去の自転車事故では、加害者が小学生であっても数千万円を超えるような損害賠償を求められたようなケースもあります。命に係わる事故、巨額の賠償金、一生残る心の傷・・・「ながらスマホ」は絶対にやめましょう。

<参考> ・総務省「インターネットトラブル事例集（2020年度版）」

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html

本メールに関して御質問、お問い合わせがある場合は下記まで御連絡ください。

【担当】 福井県安全環境部県民安全課 角田

☎:0776-20-0745（直通） メール：h-kakuda-um@pref.fukui.lg.jp